

2017年(平成29年)

11月3日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

10/19~10/25のNYMEX・WTIは、51.29~52.47ドルの範囲で堅調に推移した。

10月26日は、サウジとロシアが協調減産について、来年4月以降の9か月延長で合意したとの報道、世界景気の回復による来年の石油需要の増加期待から、反発した。12月限の終値は前日比0.46ドル高の52.64ドルだった。

週末27日は、バーキンD OPEC事務局長のサウジとロシアとの合意を支持するとの発言、米連邦準備制度理事会(FRB)次期議長へのパウエルFRB理事の就任観測によるドル安の進行で、大幅続伸した。ただ、イラク政府軍とクルド人自治政府部隊「ペシュメルガ」の停戦協定締結による緊張の緩和が上値の若干の重しとなった。ペカーヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数は737基(前週比1基増)で4週振りに増加したが、大きな影響はなかった。12月限の終値は前日比1.26ドル高の53.90ドルだった。

週明け30日は、マズルーイUAEエネルギー相が協調減産延長に賛同するなどOPEC等の協調減産延長への期待感を背景に、3営業日続伸した。JPモルガンの2018年の原油価格予想の上方修正がこれを支えたが、イラク政府による北部キルクーク油田からの供給削減を補うための南部バスラからの原油輸出能力の日量90万バレル引き上げ発表が圧迫材料となった。12月限の終値は前週末比0.25ドル高の54.15ドルだった。31日は、引き続き、OPEC等の協調減産延長への期待を背景に、4営業日続伸した。ただ、月末の利益確定売りもあり、この日夕刻、翌日の米国官民の在庫週報の様子見のムードも強かった。12月限の終値は前日比0.23ドル高の54.38ドルだった。

1日は、EIA米国原油在庫週報が市場の予想ほどには取り崩されなかったことから、利益確定の売りを誘い、5営業日振りに反落した。12月限の終値は前日比0.08ドル安の54.30ドルだった。

アジアの指標原油である中東産パイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週55.60~56.40ドルの範囲で推移した。10月26日56.20ドル、27日57.30ドル、30日58.10ドル、31日58.50ドル、1日は59.30ドルで推移した。

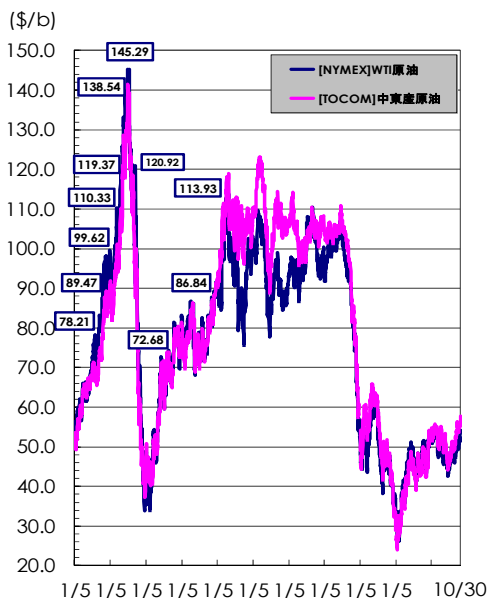
為替は、前週112.77~113.92円とやや円安で推移した。10月26日113.57円、27日114.16円、30日113.78円、31日113.16円、11月1日113.86円で推移した。

財務省が31日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、10月上旬の原油輸入平均CIF価格は、37,946円/klとなり、前旬を2,018円上回った。ドル建てでは53.83ドルで前旬比1.67ドル高。為替レートは1ドル/112.07円。

主要元売会社の11月第2週に適用する卸価格は、ガソリンが1.0円の値上げ、軽油が1.0円の値上げ、灯油が1.5円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、10月30日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同0.3円の値上がりだった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油は6週連続の値上がりだった。この週(11月第1週)の原油コストは値上がりしたが、元売の卸価格は、ガソリンは据え置きと0.5~1.0円の値上げに、軽油は0.5~1.0円の値上げに、灯油は1.0~1.5円の値上げにそれぞれ分かれた。

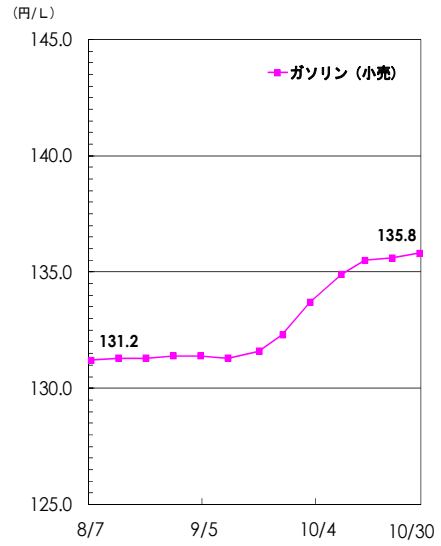
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	10/22 ~ 10/28	3,171 → 0	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	81.0 → 0.0	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	10/28	13,119 ▼ -374	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	10/30	57.69 ▲ 2.37	▲ 10.6
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	10/30	54.15 ▲ 2.25	▲ 7.3
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	10月上旬	53.83 ▲ 1.67	▲ 8.53
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	37,946 ▲ 2,018	▲ 8,765
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	112.07 ▼ -2.56	▼ -9.65
	外国為替TTSレート (¥/\$)	10/30	114.78 ▲ 0.11	▼ -8.92



(単位：千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/22 ~ 10/28	930 ▼ -48	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	1,004 ▲ 52	▲ -	
	輸出	"	43 ▲ 18	▼ -	
	在庫	10/28	1,578 ▼ -117	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/24 ~ 10/30	54.1 ▲ 0.3	▲ 10.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/24 ~ 10/30	55.3 ▲ 0.8	▲ 11.8
		(TOCOM/中部)	10/30	55.5 ▲ 1.0	▲ 12.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/30	135.8 ▲ 0.2	▲ 9.5	

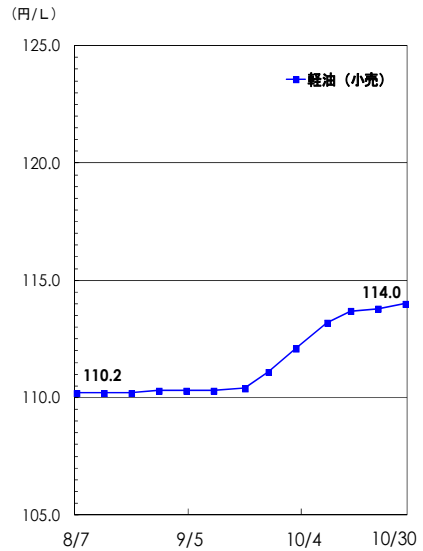
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

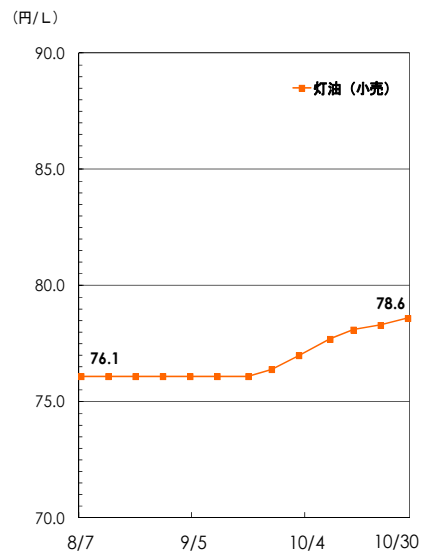
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/22 ~ 10/28	783 ▲ 60	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	698 ▲ 85	▲ -	
	輸出	"	130 ▼ -17	▼ -	
	在庫	10/28	1,363 ▼ -46	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/24 ~ 10/30	53.5 ▲ 0.3	▲ 11.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/24 ~ 10/30	52.2 ▲ 2.0	▲ 11.2
		(TOCOM/中部)	10/30	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/30	114.0 ▲ 0.2	▲ 9.0	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位：千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	10/22 ~ 10/28	283 ▲ 44	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	377 ▲ 121	▲ -	
	輸出	"	1 ▼ -49	▲ -	
	在庫	10/28	2,559 ▼ -94	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	10/24 ~ 10/30	55.8 ▲ 0.8	▲ 13.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	10/24 ~ 10/30	56.2 ▲ 1.1	▲ 11.6
		(TOCOM/中部)	10/30	56.7 ▲ 0.7	▲ 12.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	10/30	78.6 ▲ 0.3	▲ 13.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月1日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比240万バレル減と市場予想(180万バレル減)を上回ったものの、前日全米石油協会(API)が公表した510万バレル減を下回る減少にとどまったことから、利益確定の売りを誘い、5営業日振りに反落した。ただ、その前にロイターが報じた10月のOPEC原油生産量は、前月から8万バレル減少だったことから、一時55.25ドルまで上昇する場面もあった。12月限の終値は前日比0.08ドル安の54.30ドル、1月限の終値は前日比0.08ドル安の54.51ドルだった。

EIAによると、10月30日時点のガソリンの小売価格は前週比0.9セント値上がりの1ガロン2.488ドル(75.3円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.2セント値上がりの2.819ドル(85.4円/ℓ)。ガソリンは7週振りの値上がり、ディーゼルは3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月22日~10月28日に休止したトッパー能力は38.5万バレル/日で、前週に対して2.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

ジェット4.7万kl(対前週39.1%減)、灯油37.7万kl(対前週47.1%増)、軽油69.8万kl(対前週13.8%増)、A重油17.8万kl(対前週6.4%減)、C重油24.8万kl(対前週40.3%増)。

原油処理量は317.1万klと、前週に対して横ばい。前年に対しては1.1万klの増加。トッパー稼働率は81.0%と前週に対して横這い、前年に対しては6.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリンのみが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/4.9%減、ジェット/27.7%増、灯油/18.4%増、軽油/8.3%増、A重油/3.6%増、C重油/13.5%増。今週のC重油の輸入は2.6万kl(前週比2.1万kl増)。軽油の輸出は13.0万kl(前週比1.7万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油が減少し、その他の油種で増加した。前年比では、ガソリン、灯油、軽油が増加し、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は100.4万kl(対前週5.5%増)と2週連続で前週比で増加、3週振りで前年比で増加となり、3週振りで100万klを上回った。

(単位:千KL)

	今週 (10/22 ~ 10/28)	前週 (10/15 ~ 10/21)	前週比	
ガソリン	1,004	952	▲ 52	(5%)
ジェット燃料	47	77	▼ -30	(-39%)
灯油	377	256	▲ 121	(47%)
軽油	698	613	▲ 85	(14%)
A重油	178	190	▼ -12	(-6%)
C重油	248	177	▲ 71	(40%)
合計	2,552	2,265	▲ 287	(13%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

10月28日時点の在庫は、ジェットのみが積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、ジェット、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.8万kl、前週差11.7万kl減。前年に対しては7.6万kl多い。

灯油は255.9万kl、前週差9.4万kl減。前年に対しては16.1万kl少ない。

軽油は136.3万kl、前週差4.6万kl減。前年に対しては5.1万kl少ない。

A重油は69.0万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては4.5万kl少ない。

C重油は203.1万kl、前週差1.6万kl減。前年に対しては15.7万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (10/28)	前週 (10/21)	前週比	
ガソリン	1,578	1,695	▼ -117	(-7%)
ジェット燃料	1,052	981	▲ 71	(7%)
灯油	2,559	2,653	▼ -94	(-4%)
軽油	1,363	1,409	▼ -46	(-3%)
A重油	690	715	▼ -25	(-3%)
C重油	2,031	2,047	▼ -16	(-1%)
合計	9,273	9,500	▼ -227	(-2.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月24日から30日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートは円安で、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン107～108円台でわずかに軟化、軽油53円台でほぼ横ばい、灯油55円台でほぼ横ばいで推移した。

海上スポット価格は、ガソリン110～111円台で大きく値上がり、軽油55～57円台で大きく値上がり、灯油54～57円台

で大きく値上がりし推移した。

先物価格は、ガソリン108～110円台で大きく値上がり、軽油51～53円台で大きく値上がり、灯油55～57円台で大きく値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリンが1.0円、軽油は1.0円、灯油は1.5円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月24日から10月30日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は全てで全油種値上りした。

11月第2週(11月2日～11月8日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月24日～30日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.8円の値上がり、軽油は0.3円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.3円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油は0.9円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが0.8円の値上がり、灯油は1.1円の値上がり、軽油は2.0円の値下がりだった。原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりだった。

11月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油が1.0円の値上げ、灯油が1.5円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

	今週 (10/24 ~ 10/30)	前週 (10/17 ~ 10/23)	前週比
レギュラー	54.1	53.8	▲ 0.3
灯油	55.8	55.0	▲ 0.8
軽油	53.5	53.2	▲ 0.3
	今週 (10/24 ~ 10/30)	前週 (10/17 ~ 10/23)	前週比
レギュラー	55.3	54.5	▲ 0.8
灯油	56.2	55.1	▲ 1.1
軽油	52.2	50.2	▲ 2.0

※上記価格は税抜き価格

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.3	▲ 0.8	▲ 0.5
灯油	▲ 0.8	▲ 1.1	▲ 0.9
軽油	▲ 0.3	▲ 2.0	▲ 1.2
A重油	▲ 0.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

10月30日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の135.8円を付け本年最高値を4週連続で記録、軽油は同0.2円高の114.0円、灯油は同0.3円高の78.6円だった。ガソリンは7週連続の値上がり、軽油も7週連続の値上がり、灯油は6週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは32道府県で、横ばいは9府県、値下がりの県は6県だった。全国最安値は埼玉県の130.8円(同0.4円高)、次が千葉県の131.9円(同0.1円高)、最高値は沖縄県の145.0円(同0.3円高)だった。最も値上がりしたのは、1.0円高の愛知県(134.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、据え置きと0.5～1.0円の値上げに分かれたが、7週連続でガソ

リン小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリンと軽油は1.0円、灯油は1.5円の値上げとなった。次週(11月6日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) [週動向]	今週 (10/30)	前週 (10/23)	前週比	直近高値
レギュラー	135.8	135.6	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	78.6	78.3	▲ 0.3	08/8/11 132.1
軽油	114.0	113.8	▲ 0.2	08/8/4 167.4

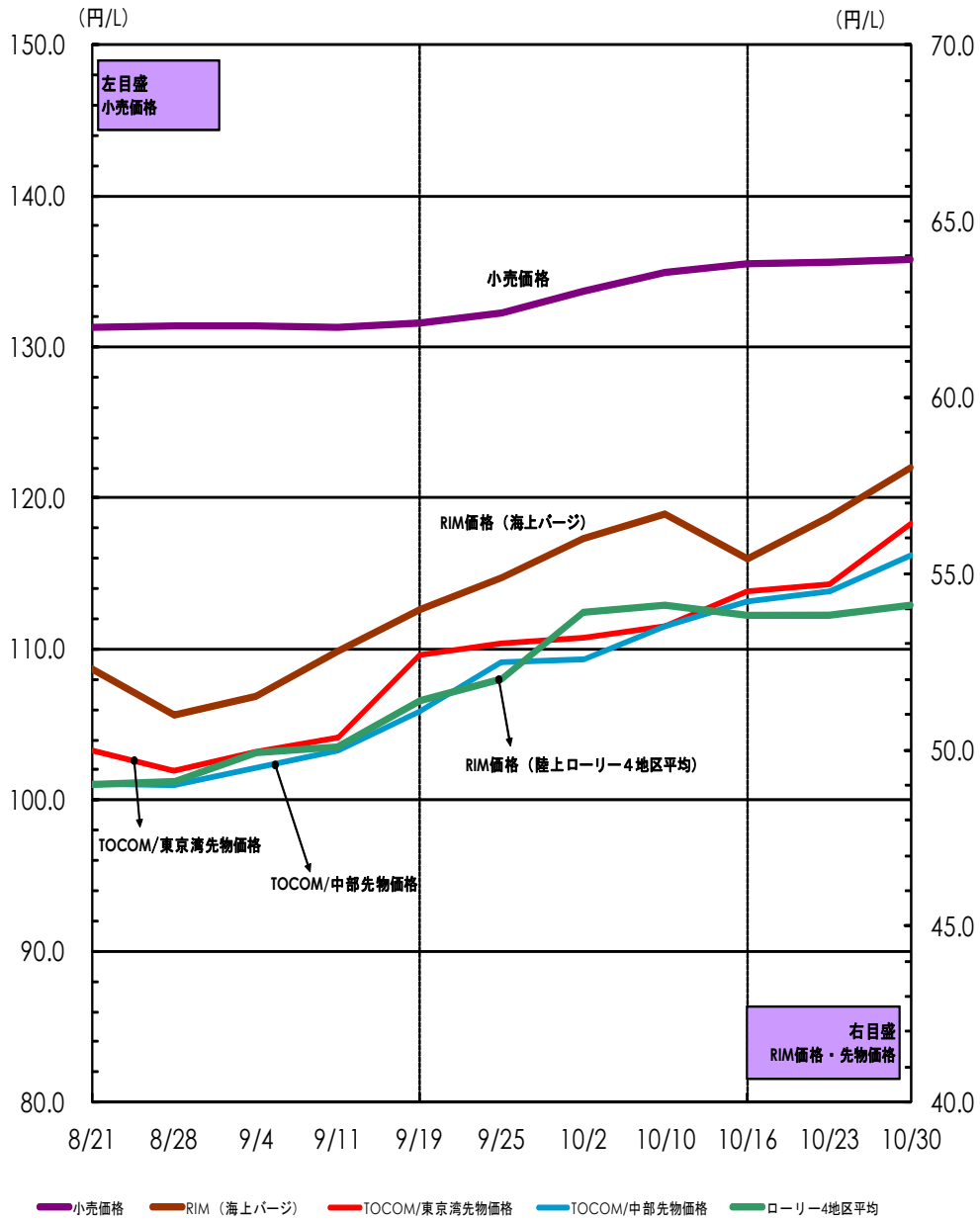
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/8/21 ~ 2017/10/30)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2017第30号)の公表は、11/10(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。